

e-dream-s通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

教育用フォトアーカイブ @aglance <http://www.aglance/>

No.29 発行：2002年 12月 8日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

- 目次
- 1 活性化エネルギー 辻荘一 p1
 - 2 教育の行方：サービス社会へ 井川好二 p3
 - 3 「ハウレン草、1杯！」 中川房代 p6
 - 4 ECAP 2003 Korea 実行委員会報告 塚本美紀 p8
 - 5 @aglance 緊急対策チームからの報告 道面和枝 p9
 - 6 News A CD-ROM プロジェクト報告 飯田佐恵 丸野有利子 石黒あかね p11
 - 7 「認定 NPO 法人制度」改正決起集会の報告 志村洋子 p14
 - 8 ホームページ改訂 田辺恵美 p15
 - 9 カメルーンへの出発の前に 山田昌子 p15
 - 10 お知らせ p18

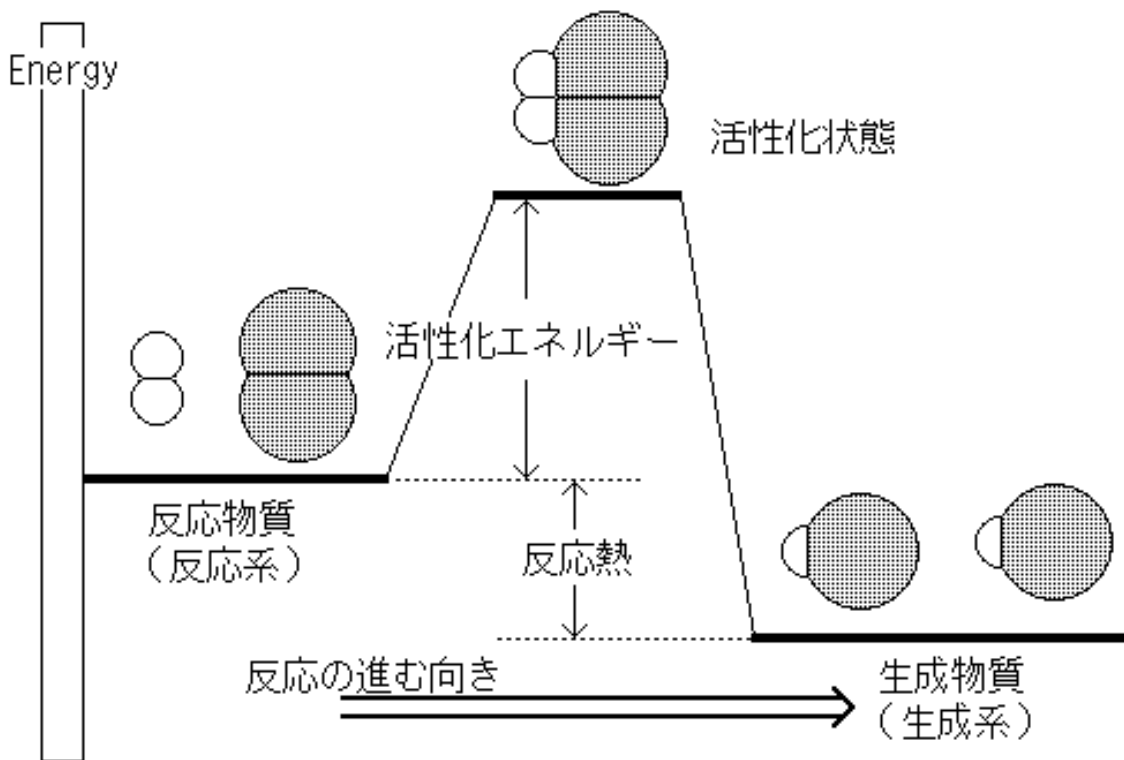
活性化エネルギー

辻 荘 一

最新の脳の研究によると人間の「やる気」は扁桃体というところで生まれるらしく、しかも何かをするための「やる気」は何もしない状態では生まれなくて、とりあえずその何かをやり始めると生まれるものだという事です。そしていったんやる気が出ると扁桃体がどんどん興奮して、ますますやる気がでる、というような事らしいです。

これは日常生活の実感と一致します。私は掃除が大嫌いなのですが、一度はじめてしまうと意地になって長時間続けてしまったりすることが結構あります。逆にごろごろしていると、ますますダレてきて一日何もしないで過ごしたりすることもあります。

これは化学で言う活性化エネルギー（ある反応を開始するのに必要なエネルギー）と似通っています。最初にある程度大きなエネルギー（活性化エネルギー）を与えると後はエネルギーを与えなくても反応がどんどん進んでいくという話です。



化学反応と同じように、まず始めてみることで、図の活性化エネルギーに当たるものが精神的にも得られるということだと考えると理科系の人なんかは納得しやすい話かもしれません。

人はそれぞれあれが好きこれが嫌いという嗜好があるわけですが、これは意外にそれまでの経験の範囲内で判断されていて、意外なものが好きかもしれないけれども、自分には分からない。つまりやってみるまでは好きか嫌いかわからない、好きだとしてもやってみないとやる気も出ない、ということです。

こんな風に脳科学の最新の知見で断定されると、本当に好きなことを発見できずに損をしてきたのかもしれないとも思われます。

結局どんな大きな事でも取りあえず始めることが大事なんですね。一旦始めると精神的な連鎖反応が起こって、思いがけなく遠くまでいったり、大きな事を為し遂げたりすることが

あるわけです。

このやる気、あるいは活性化エネルギーの話は個人の集合体である社会にも当てはまるような気がします。そう考えると e-dream-s の使命は、@aglance やチャータースクールツアー、ECAP などのさまざまな活動を通じて社会に活性化エネルギーを与える、あるいは社会の扁桃体を興奮させることだと定義できるかもしれません。そのためには私たち自身が自分に活性化エネルギーを与え続けなければなりません。

e-dream-s.come.true

教育の行方：サービス社会へ

井川好二

世界は大きく変わりつつあります。通信技術と交通手段の発達により、地球はますます小さくなっています。巨大な消費社会が出現し、アメリカでも、ヨーロッパでも、日本でも、人々の買いたい欲望が渦巻いています。企業では、世界で売れる商品をいち早く開発し、世界のマーケットに供給することが、至上の課題となりました。

トヨタの 4WD ピックアップに地対空ミサイルを積んで、アフガニスタンの荒野を駆け巡るゲリラ部隊。AU の世界携帯で、覚醒剤密輸の段取りをする北朝鮮工作員。リヤドのスターバックスでカフェ・ラテを飲みながら、ブッシュの対イラク強硬路線に激高するターバン姿の男たち。

消費は、政治や宗教と切り離されて、世界を動かしています。

このようなグローバル消費者社会は、今後ますます拡大し、世界を変えていくと考えられます。こうした現実の中で、教育はどうあるべきなのでしょう？教育が未来を創るとすれば、どのような未来を創ることを目標に、現在の教育を行っていくべきでしょうか？

消費のグローバル化の裏面は、もちろん、生産のグローバル化です。

例えば、日本国内での生産は、ますます空洞化していると云われています。つまり、日本の工場で作るより、中国の工場で作った方が、同じ製品の労働のコストが 1/10 以下で済むとすれば、不況下で激しい価格競争を強いられている各企業が、中国へ生産基地を移すことになるのは、当然の成り行きと云えるでしょう。

そして、中国で生産された製品が、日本やアメリカやヨーロッパに輸出され、次々に消費されていくことになるわけで、そう言う意味で、1億2千万人の小金を持った消費者を抱える日本は、巨大なマーケットであるとも云えますし、中国の経済発展を支えているのは、日本の消費者であるわけです。

しかし、この生産のグローバル化は、日本国内の工場の縮小・閉鎖を意味しています。生産の空洞化です。これに伴い、失業者が大量に発生することは、明らかでしょう。もともと、日本の工場では、コンピュータ制御による生産の自動化が推進されていきましたから、ブルーカラーの労働需要は、極小となっているのが現状です。「工業大国日本」と呼ばれた時代から考えれば、大きな産業構造の変換と云わざるを得ません。

一方、ホワイト・カラー労働者にとっても、大きな変化が起っています。OA 機器、IT 通信の導入により、単純オフィス労働に対する需要は、どんどん少なくなっています。今まで OL の分担であった仕事の多くが、機械に振り分けられ、中間管理職の業務内容まで、コンピュータ化や派遣やアウトソーシングで代替する動きが進んでいます。

不況のためリストラをせざるを得ない企業が大半で、その影響もホワイト・カラーには、深刻なものとなっています。企業内で、人材の選別が進み、コンピュータ化や、派遣やアウトソーシングによって代替できない人材のみが、ホワイト・カラーとして生き残れる時代になっています。つまり、ホワイト・カラーの二極分解が進んでいるわけです。サラリーマンが気楽な家業だった時代は、終焉しました。

21世紀の世界では、こうした消費、生産のグローバル化に、一層拍車がかかり、日本の消費社会化と生産の空洞化は、ますます進んでいくと考えられます。

変わりゆく世界の中で、日本の教育はどうあるべきなのでしょう？

これからの日本社会は、広い意味での「サービス業」を主体とする社会になって行くと云われています。小売、飲食、レジャー、運送、交通、通信、広告、放送、教育、福祉など、様々な業種が、サービス業の分野だと考えられますし、商品の開発、ノウハウの提供、コンサルティングなども、広い意味のサービス業と云えます。

日本の未来は、このように、生産大国からサービス大国への脱皮を、前提としているのです。

それでは、この未来の「サービス大国」で求められているのは、どのような人材でしょうか？

それは、次の3点にまとめられるでしょう：(1) スムースなインターフェース（コミュニケーション）能力、(2) 知識の集積と分析能力、(3) 独創性とリーダーシップ。

サービス業の基本は、人とのスムーズなコミュニケーション能力です。ここでは、敢えて、「インターフェース能力」と呼びますが、中身は、言葉、態度、表情を含めて、人と接し、意志の疎通をスムーズに図る能力や、異文化の対応能力のことです。これには、日本語のみではなく、世界語である英語／中国語による「インターフェース能力」も含まれます。

コンピュータや通信手段の発達で、社会には情報が溢れています。だからこそ、本当に役に立つ知識を集積し、分析して提示する能力が、求められているのです。もちろん、IT 技術を駆使できること、日本語と世界語（英語／中国語）で情報が収集できることが、必要であるのは言うまでもありませんし、分析するための「知恵」を持ち合わせていることも、前提となるでしょう。

独創は、個人のこだわりや、民族の文化から生まれます。一見、矛盾しているようですが、真に独創的なものは、個別を深化させて、普遍へ突き抜けるところに生まれるものなのです。サービス社会での独創は、日本の「文化」の中から、汲み出されていくのでしょうか。

リーダーシップは、その独創を世界に広げていくプロセスに関わっています。ビジョンを世界に提示し、世界を説得できる能力が求められています。それは、単なるコミュニケーション能力ではなく、ビジョンの斬新さや包括性も、含んだ能力であります。また、グローバル／サービス社会でのリーダーシップとは、一度確立されても、その都度、その場で、更新しなければならないものだと云えます。

このように、未来の日本社会の姿と、そこで求められる人材を考えてみると、現在の学校教育で行われていることが、いかに見当違いであるかがはっきりします。

教育で日本を、世界を、変えようと云う使命を持つ e-dream-s が、考えなければならない材料が、ここにもあります。(Saturday, December 7, 2002)

「ホウレン草、1杯！」

中 川 房 代

「いらっしゃいませ！ 何にしましょうか？」

「ホウレン草、下さい。」

「ありがとうございます。200円になります。」

土曜日の朝は、「ホウレン草」か「小松菜」と決めている。理由は至って単純で、ポパイを見習って(?)、飲むと元気がでそうな気がするからである。

私のよく利用する私鉄のいくつかの駅にジュース・スタンドの店がある。わずか5坪ほどの店舗にカウンターとジュースサーバーだけが並んでいる。ジュースの種類は約10種類で、1杯150〜280円。私は週に1〜2回利用しており、味も結構気に入っている。材料も缶詰ではなく本物の果物や野菜を使っていて、ホウレン草などの野菜も飲み易いように果物やハチミツをブレンドするなどの工夫をしている。水も多すぎず、細かく砕いた氷が入っていて冷たさが確保されている。値段もお手頃。店舗によっては、ホーム、駅構内、通路と様々であるが、いつ見ても何人かの客がいる。巷の「健康ブーム」にも助けられ、また「女性でも立ち飲みできる」ことをコンセプトにしているだけあって、確かに若い女性の客も多い。

このジュース・スタンドのことをいつか『e-dream-s 通信』に書こうと思っていたら、先日新聞に先を越されてしまった。(「鉄道事業は全社減収・関西私鉄5社中間決算 頼みは副業」2002年11月30日 朝日新聞・朝刊) うーん、ちょっと悔しいなあ。

その新聞記事によると、関西大手私鉄5社は、鉄道収入の減収が続いており、その状況下で、鉄道収入以外の「新規ビジネスでの増収に期待する戦略を強めている」そうである。具体的には、駅構内・周辺での消費者金融、保育所、本屋、コンビニなどが登場している、とある。かのジュースの店舗は、1日平均2,000杯、年商1億2,000万円を記録したそうである。

NPOに限らず、景気低迷の中、企業にとっても増収への道は険しい。今年驚異的な収益を上げたとしても、翌年もそうなるという保証はどこにもない。

最近参加したNPOの事業立案に関わる「ストラテジック・プランニング」という講座の中で、講師の先生から事業立案の際に念頭に置くべきこととして言われていた中から2つ紹介する。

1. 自分たちの組織の他との違い、“売り”、他団体との差別化は、方法論で示す。ミッションは言葉にすると似通った団体がたくさんあり、そのミッションを実現する「方法」で、他との違いを示すように工夫すること。
2. 自分たちの一番したい事業が経営的に難しい(収益が得られない)と思われる場合には、NPOの組織の継続性を保つために、まず財政的な安定感を得られるプランを1つ作成し、実施することも大切である。そのプランで収益を確保しながら、自分たちの一番したい事業を展開していく方法が望ましい。

ちょうど、e-dream-sも11月に収益(イベント)企画を募集し、12月8日の理事会でその企画について検討する予定である。私たちが本当に一番したい事業とは何なのか、そのための財政的な基盤作りとして何をしていくのか、まだまだ試行錯誤の続くe-dream-sではある。しかし、だからこそ、NPOはおもしろいのである。私たちの前に道はない。私たちの後ろに道はできるのだから!

「行ってらっしゃい！」

冷たい「ハウレン草ジュース」とジュース・スタンドの店員の言葉に、“よーし、今日も頑張って行って来るぞ!”気合いを入れ直し、地下鉄に乗り継ぐ私である。

ECAP 2003 Korea 実行委員会報告

塚 本 美 紀

最近、韓国で ECAP をお手伝いいただいている Young Hee からのメールが、パタパタと走り回るのが聞こえてきそうな忙しそうな文面だ。実行委員会が韓国への下見を行ったころ、韓国の高校では大学入試の大詰めを迎えていた。私が、授業に参加させていただいた江南にある Karak High School でも、3 年生は授業は午前中のみ、午後から、迎えにきた保護者の車やタクシーに分乗して、それぞれの塾へと向かっていた。その大学入試の結果がでるのが 1 2 月。韓国の先生方は、現在、その結果を迎える準備に忙しいそうだ。授業の合間に急いで書いたと思われる Young Hee のメールからそんな様子が伺える。

その Young Hee が 1 月 1 日から 8 日まで、高校で社会を教えているご主人と小学生の息子さん二人を連れて、日本に滞在する。彼等にとっては、初めての来日である。「日本という国は、良くない国だと思っていたけど、リーズ大学にいる時たくさん日本の友達ができて、親しくするうちに、日本人とは仲良くできると思った」という。そんな Young Hee にとって、今回の来日が実り多いものであって欲しい思う。日本滞在のスケジュールは、1 月 1 日から 3 日までは九州、3 日から 4 日までは広島、4 日から 8 日までは大阪である。大阪滞在中はアクロスの合宿にも一部参加していただく予定で、韓国の英語教育事情について、英語でのレクチャーをしていただくよう依頼している。また、ECAP 実行委員会でも会議を持ち、教材作りの参考にするためのアンケート実施の詳細や、ホームステイ先や韓国での ECAP 参加者の募集の仕方などについて話し合う予定だ。ECAP 実行委員会は、1 2 月 7 日に大阪で会議を持ち、この Young Hee の来日の際に話し合う内容の検討をすることにしている。

その一つのアンケートについては、現在、内容を検討中だ。このアンケートは、フェニックスで参加者が教材を作る際の「もと」となるものなので、慎重な検討が必要かと思われる。現在、考えているのは、いくつかの学校で、韓国・日本についてお互いどの程度知っているのか、あるいは知らないのかということを探るためのアンケートを、日韓両国で実施する。その結果を受けて、できるだけ多くの生徒を対象にアンケートを行い、それを分析、まとめたものをもとに、ジャンルを分けて、異文化理解の教材を作ろうというものだ。本年度中にアンケートを行いたいと考えているので、会員の皆様にも何らかの形でご協力をお願いする事があると思いますので、よろしく申し上げます。

ソウルでは、オプションでホームステイを計画している。日本語か英語が話せる方がいらっしゃる家庭にホームステイをお願いしたいと考えている。英語教師だけでなく、日本語教師も対象になると思われるので、日本語教師の団体の長をしている方をご存知だというイー先生にご協力をお願いしている。また、韓国の新学期にあわせて、ソウルの各学校にホームステイの依頼の文書を送れるよう、ソウル教育委員会への働きかけを、藤沢さんを中心に韓国側の協力者の方々と検討中である。

アンケートを作成するにあたって、韓国についての本を数冊読んでいる所だが、隣の国のことなのに（あるいは自分の国のことであっても）知らない事がたくさんあることに、今更ながら驚いている。飛行機では、ゆっくりご飯も食べられない距離で、海辺に行けばハングル文字が印刷されたシャンプーの空容器が浮かんでいるほどの距離なのに、あまりにも無知であった自分を恥じている。この ECAP の企画を通して、「近くて遠い国」が「近くて近い国」になれるよう、すすめていきたいと思う。

@aglance 緊急対策チームからの報告

道 面 和 枝

[授業での使用例:制作・収集プロジェクト]

1) メンバー : 岡崎・佐藤・稲川・道面

2) 活動内容

①中学・高校英語教科書を中心とした使用例を集める。

(教科書、学年、学期、ユニットごとに、簡単なシラバスと共にまとめる。)

②@aglance のサイトに、使用例として紹介する。

(2003年1月から徐々に掲載。4月から本格的に掲載を始める。)

※今後は、他教科、総合的な学習、小学校の英語などの教材も収集したいが、とりあえず、中学・高校の英語授業での使用例を集める。

※@aglance の掲示板に掲載された使用例 (12月3日現在)

21例: 中学英語6、高校英語13、中学国語1、中学総合1

3) 計画

- ・プロジェクトメンバー自身が一人 20 例以上を目標に教材を制作・収集する。
- ・各支部の ACROSS メンバーに協力を求める。

4) 収集のしかた

①形式は、以前 e-dream-s 総会で報告した形式を使用する。

②ただし、導入で用いたものなど、簡単なものは、形式自由とする。最低限必要なのは、使用画像のサムネール、その画像を使用した学年・教科書・レッスン名、使用方法。(レッスンの最初にアテンションゲッターとして印刷したものを回覧したという程度でも十分)

以上、皆さまの協力も必須となっております。

最近、@aglance の掲示板に、会員からの教材使用例の紹介が増えて喜んでます。この調子で、是非、まず会員自身が@aglance の写真を利用して使用例を増やしていきましょうまた、これからこのように使用したいというアイデアも、各支部の担当者宛てにお知らせ下さい。(大阪：岡崎・稲川、東京：佐藤、広島：道面)

追記) 英語の授業での使用例作成のヒント

1. 中学校、高校の英語科教員向けの雑誌だけでなく、その周辺の雑誌にもヒントがたくさんあります。図書館や書店などで立ち読みをしてみましょう！例：Kidscom (アルク)
2. 高校生向けなら、TOEIC のリスニング模擬問題(写真を使った問題)あたりを@aglance の人物写真などを使って作れるかもしれません。
3. ALT の先生方にも呼びかけて、アイデアをいただきましょう。
(職員室で常にインターネットが使用できる環境であれば、時間がある時に開いて ALT や他の英語の先生方と一緒に見てみるのもいいですよ。)
4. 各学年、各レッスン(ユニット)の使用例を考える場合、「文法項目」と「題材」の両面からアプローチしましょう。

<形式>

@aglance の写真：授業での使用例

| | | | |
|-------------|---------------------------------|-------|--------------|
| 授業者名 | | 使用年月日 | ()年()月()日 |
| 対象学年 生徒数 | 小学()年 中学()年 高校()年 生徒数()名 | | |
| 教科書・単 元名 | | | |
| 使用した | () タイトル「 」 | | |

| | |
|--------------|--|
| 写真 | 検索方法 |
| 使用目的 | |
| 写真の 提示方法 | <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> プリントアウト サイズ () 版 枚数 () 枚 |
| 指導内容 | |
| 生徒の反 応・感想 | |
| 授業者の 感想 | |

NEWS A CD-ROM プロジェクト報告

飯 田 佐 恵

第8回理事会ではビレットデータベースファイル作成は専門家に頼む他ないとあきらめていた私たち2人でしたが、ソフトウェア会社の親切なサポートスタッフと何度も問答しながら、10月に試作品をつくることができました。

その後、副代表理事中川さんの音頭でデータのチェックやテキストファイル作成の協力者を募っていただき、予定通り2003年1月の冬合宿で会員のみなさんのお手元に届けることができそうです。たくさんの方々のご協力に感謝しております。

12月8日現在でテキストファイル作成は1/3終了しています。残りをなるべく早く仕上げてもらってから、そのテキストファイルを使って、ビレットデータベースファイル作成とマスターCD-ROMの作成作業を丸野と飯田の2人で12月19日～20日に大阪で行う計画です。

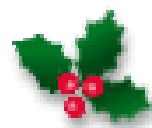
マスターCD-ROMのチェック後、また、協力していただく方と分担してCD-ROMの複製作業をする段取りになっています。

CD-R/RW (CDを焼く機械)をお持ちの方はNEWS AのCD-ROM化の最終段階、CD-ROMの複製

作業にご協力くださるようお願いいたします。

| | | |
|-------|-------------|--------------------|
| 2002年 | 10月 | 試作品チェック |
| | 10月～11月半ば | キーワード等チェック作業 |
| | 11月半ば～12月初め | テキストファイル作成作業 |
| | 12月19日～20日 | ビレットデータベースファイル作成作業 |
| | | マスターCD-ROMの作成作業 |
| | 12月21日～25日 | マスターCD-ROMのチェック |
| | 12月26日～31日 | CD-ROMの複製作業 |
| 2003年 | 1月4日 | ACROSSへ納入完了 |

各作業のお手伝いをしてくださったみなさまに心からお礼申し上げます。
ありがとうございました。



News A、とうとう CD-ROM になります！

丸 野 有 利 子

いつときはプロに頼まないと技術的に無理かとあきらめかけたのですが、データベースソフトのサポートスタッフに何度も問い合わせたり（サポートセンターが何と飯田さんのご近所だった縁もあり、親身になって対応してもらいました）、二人でアレヤコレヤ試行錯誤しているうちに、手間と時間さえかければ可能だと分かり、前回の理事会でその旨ご報告しました。そして、あともう半年時間を下さい、とお願いしたのですが、そんなに待てへん、いつまでかかってんのや、今年中に完成せなあかん（言葉は違いますがそんなニュアンスで）との冷たいお達し。心の中で泣きつつ（?!）飯田さんと二人で頭を抱えたのでした。

そこへスーパーウーマンのごとくさっそうと現れた助っ人が中川さん。作業要項を作りなさい、人は探すから、と言われて提出すると、あれよあれよと言う間に協力者を見つけられました。それも第一弾のみならず、第二弾までも。結局、延べ20名近くの方々にお世話になりました。2回とも手伝って下さった方もおられます。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

第二弾の作業も続々と完了との報告が入り、あとは作っていただいたテキストファイルを

News A のスキャン画像とともに「ビレット」というデータベースソフトに組み込む作業を、飯田さんと二人で今月 19 日から 2 日間かけて完了させる予定です。

その後、完成した CD-ROM をさらに 60〜70 枚 (?) 複製する作業が残っていますが、これも二人だけでやるとまた数日かかってしまうので、会員の中で CD-R/RW ドライブ (CD を焼くマシン) をお持ちの方にご協力を呼びかけております。5 枚でも 10 枚でも手伝っていただければ有り難いです。では、私の分担の最後の追い込みに入ります！

CD-ROM 化の作業をお手伝いいただいたメンバーを代表して感想をいただきました。

News A CD-ROM化の作業に参加して

石黒あかね

膨大な量の印刷物をパソコンに読み込み、CDに焼き付け、また別のパソコンで呼び出せるなんてすごい“技”だなあ思いつつ、アナログ人間を脱せない私は、1990年の記事をすべてプリントアウトし、パソコンから離れて作業をしました。「大魔神外伝」では初期の頃のアクロスの様子や中津先生の偉大さを知り、井川先生が長年、毎月エッセイを書き続けていることに尊敬の念を覚え、合宿の感想を読んではチェックパスの苦労は今も昔も変わらないんだと思ったり……。アクロスの脈々と続く歴史と、少しずつ変化しているアクロスを感じ取ることでできた作業でした。

志村洋子

11月18日(月) 6:30~8:45 日比谷高校星陵会館ホールにて
当日資料、出席議員のプロフィール、NPO側発言者のプロフィールなどとてもわかりやすく作られてありました。他の団体のことも少し分かり楽しくもありません。

◎始めに概略です。

- * NPO 法人は現在約 8700 法人で 1 カ月に 300 件の申請がある。
- * NPO 法制化は議員の超党派運動である。
- * 「認定 NPO 法人制度」は 2001 年 10 月 1 日にスタートした。
- * この制度の目的は法人の財政基盤を強化することである。
- * 制約の多い支援体制であると、関係議員は認識しているが関係議員でないところはなかなか固い壁である。
- * この一ヶ月が法改正の動きの良い機会である。
- * 優遇税制の申請で現在 18 法人が申請し、9 法人が認定されている。

*初めからあきらめている団体が多い。

◎◎「認定 NPO 法人制度」は、

*認定要件を満たしていると国税庁長官に認定される。

*認定されると、その法人への寄付者には一定金額まで寄付金が課税所得から控除される。つまり寄付者が寄付しやすくなる。法人は寄付を集めやすくなる。

◎◎◎「認定 NPO 法人制度」の問題点は雑把に言うと、要件が厳しすぎて申請すらできないということです。その要件との関連でいうと、

① パブリック・サポート・テスト

「総収入金額等にしめる受け入れ寄付金金額等の割合が3分の1以上あること。」

調査したところによれば法人の96.6%がこのテストで落ちる。

② 広域性の要件

「一つの自治体を超えて活動する部分が2割以上あること。」…イー・ドリームズはこれはいいかな。

③ 共益団体排除の規定

「会員や登録者等に有料サービスをしている活動等が主たる活動でないこと。」

④ 社員（正会員）等の親族の制限

役員、正会員のうち特定の親族が占める割合に制限がある。…今後どうなるか。

⑤ 海外送金手続きの煩雑さ

海外送金、金銭の持ち出しをする場合には、事前に税務署に届出。事後にも補正申告。たくさんの NPO 法人の人々が誰一人眠っていない、と議員が驚く会場でした。どこも財政で悩んでいる熱気でした。

ホームページ改訂

田 辺 恵 美

8月末の会員総会で「e-dream-s ホームページを改訂します。」と言いながら、なかなか取り掛かれずにいました。理由はいろいろあるのですが、その大きな原因の1つがトップページのデザインの新しいアイデアがなかなか思いつかないことでした。すっきりとセンスよ

くしたいと思いながら、他のホームページを見て研究したりしていましたが、あまり難しいのも技術的に無理があるので少し困っていました。そんなある日、代表理事からの助け舟があり、ホームページ改訂の相談にのっていただきました。とにかく、11月中に作ってみる、ということで作成開始。今あるもののボタンなどを少し変えて作ってみました。そして、早速、送って見てもらいました。ところが、「どうも今ひとつよくないので、こんなふうに作ってみてください。」という返事。少しショックを受けつつも、代案として送られてきたワードのファイルを見れば、とてもかっこよく独創的！ 思わず声をあげて感心してしまいました。この「独創的（クリエイティブ）」ということに関しては、自分はとても苦手な分野なのですが、これからの時代本当は一番必要なことだなあ、とつくづく実感しています。それからは、そのデザインを生かしたページ作りに着手しました。自前のホームページ作成ソフトを使っただけの作業ですが、今まで使ったことのない機能もたくさん発見し、苦勞しながらも楽しく進めています。現在のところは、トップページがほぼ完成し、これからは、それ以降のページをトップページからのリンクで飛べるように作っていきます。中身としては、あまり変わりませんが、掲示板などは新しくします。目標は、12月中に完成。2003年の幕開けとともに、リニューアルされたホームページをみなさんと一緒に使えるように、がんばります。

カメルーンへの出発の前に

山田昌子

「なんでそんな危ないところに行くん？」

今月26日のカメルーンへの出発の前に、そろそろ両親は心配を始めました。折りも折り、ケニアでテロがあり、ザンビアで日本人女性が殺害されるという事件を臨時ニュースで聞き、心配は尽きません。我が娘は大丈夫なのか、40代の大人に向かってとは思うものの、やはり親にとって娘はいつまでたっても小娘なのかもしれません。

私かというと、日本語のガイドブックがないので、インターネットで調べに調べ、英語版のガイドブック「アフリカ」を購入、現在カメルーンのところを読んでいるところです。また、A型肝炎、狂犬病、破傷風（各2回ずつ）、黄熱病（1回）の予防接種を終え、昨日、大阪市立総合医療センター（桜ノ宮）でマラリアの予防服薬をもらったところです。

準備をすればするほど、逆にアフリカは遠いと思うようになりました。検疫所でいただいた資料によると、黄熱病による死亡率は、流行地、つまり現地の人の場合5%以下であるの

に対し、旅行者などでは50%以上になることがあるそうです。この話を聞いて、父は言いました。「日本人の場合は、もっと抵抗力がないから、その数字も上がるんやろうなあ。」黄熱病にはこれといった治療法はないそうですが、検疫所のホームページによると、予防接種の有効率は90%以上だそうです。私たちはカメルーンに入国するのに予防接種証明書（イエローカード）が必要なため、幸いといったところでしょうか。

マラリアは、実は、私が一番心配している病気です。私は、人一倍「蚊」に好かれ、夏は痒み止めの薬を手放せません。昨年12月井川顧問らとシンガポール、マレーシアに下見に行った時、私だけ蚊に刺され「痒い！」と言っては笑われました。カメルーンで刺されたら大笑いどころではありません。海外渡航者健康管理協会（NPO）編著の「海外旅行・長期滞在のためのヘルスパスポート」というガイドブックによると、カメルーンはC地域に属していて危険性が高いとされています。アフリカ以外のC地域は、これほどには危険性が低いとも書かれています。高温多湿地で発生、マラリア原虫という顕微鏡レベルの微生物が、主に血液中の赤血球の中に寄生する病気で、蚊が媒体となります。毎日、又は1〜2日おきに発熱し、早期に治療しないと危険です。中川さんは、医者に「生きて帰ってきなさいよ」と言われたそうです。これを聞いて、蚊に好かれやすい私はやっぱり不安で一杯です。またこの予防薬を服用している間はアルコールが飲めません。アルコールを飲用すると、利き目が減るそうなのです。これもまた、気になることです。

でも、考えてみると、そのような大変な土地だからこそ、経済活動が十分発展できず、だからこそ、教育も滞るのです。私たち e-dream-s が海外で教育支援活動をするなら、どうしても大変な土地ということになるでしょう。また、大変な土地だからこそ、やる必要がある、また、やりがいがあるのではないのでしょうか？アフリカだけが大変というわけではありませんが、アジアとは異なる状況を、しっかり肌で体験し、見てくる必要を感じています。そして、e-dream-s の教育支援活動として何がやれるのか、また私たちは何がやりたいのか、考えるひとつのヒントにしなければいけないという気がしています。

しっかり準備をし、副代表理事と私は、生きて元気に帰ってきます。大きなお土産を手に。皆様、1月をお楽しみに！

「カメルーンツアー」について、中間報告

1 日程と準備：

1 2月26日日本出発、27日夕方カメルーン到着、1月4日夜カメルーン出国、6日朝帰国。A型肝炎、破傷風、狂犬病、黄熱病の予防接種、査証の手配等の準備を進めている。

2 現地との連絡：

カメルーンの友人とeメールで連絡をとり、以下のように訪問計画をたてつつある。

(1) 学校訪問：

学校を訪問し、設備を見学、教員とのミーティングを行い、カメルーンの教育の現状を探りたい。その上で、e-dream-sがNPOとしてできることは何か、考えたい。

- One French system grammar school,
- One bilingual grammar school,
- One private college,
- One primary French system school, and
- One primary English system school (表記はパスカルによる)

(2) その他、訪問地：

都市のみならず、小アフリカと呼ばれ多くの民族の住む国の様々な面をできるだけ沢山見たい。(首都ヤウンデ、大商業都市ドウアラ、西部のピグミー族地域等。)

が、移動に時間がかかる(例：ヤウンデから北部地域まで3日間必要)らしいので、どれくらい様々な地を訪問できるか、出発までできる限りパスカルと検討を重ねたい。

(3) ステイの方法：

ホテルやカメルーン人宅にホームステイする予定。ホームステイを通じて、カメルーン的生活様式についても探してみたい。

(4) その他：

@aglanceの写真収集もできる限り行いたい。

3 参加者 2名(副代表理事 中川房代、理事 山田昌子)

<掲示板>

カメルーンで「是非聞いてきて！見てきて！」という事柄がありましたら、

12月24日(火)までに山田(yamada@e-dream-s.org)までご連絡ください。

お知らせ

募集：NEWS A の CD-R 複製作業へのご協力をお願い

1. 作業内容：News A のデータを保存した CD-ROM を一枚渡し、それを CD-R/RW ドライブで複製する。
一人当たり 10～20 枚複製をお願いする予定。
2. 期 限：12 月 23 日～30 日
(複製後にラベルを貼り、1 月の ACROSS 全国合宿で配布するため)
3. 所要時間：ドライブの性能によるが、1 枚複製するのに 10 分として、10 枚で 100 分
4. 必要なパソコン環境：OS は Windows でも Mac でも OK
5. 必要なもの：CD-R/RW ドライブ (パソコン内蔵または外付け)
6. 作業への応募：12 月 17 日 (火) までに中川まで。
とりまとめの都合上、締め切りを設定しますが、締め切り後も受け付けます。

編集後記

先日、小学校 3 年生の英語の授業を見学する機会がありました。全国的にも、総合の時間などを利用して、英語の時間を設ける小学校が増えています。日本の教育は、今まさに変革の時を迎えている、と実感することができました。しかし、その変革を、本当に子どもたちにとってよいものにするには、まだまだ検討、改善するべきところがたくさんあります。ただ、何事も始めなければ始まらない、私たちの後ろに道はできる、とはそういうことではないだろうか、と今月号の編集をしながら思いました。2002 年もあと僅か。しっかりとこの一年を振り返り、新しい年の目標を立てることから始めよう。来る年が、e-dream-s にとって、みなさまにとってよい年でありますように。

(田辺恵美)